



「8学マルシェ」で開発した「タパス&ピンチョス」のセット商品をPRする八戸学院大の学生ら
 14日、八戸市の八食センター

八食「大創業祭」八学大とコラボ

地元食材で「タパス&ピンチョス」

今月で開業40周年を迎えた八戸市の八食センターは、記念イベント「大創業祭」(13、29日)を展開している。14日は八戸学院大



八戸学院大の学生が中心となって開発した「タパス&ピンチョス」のセット商品

との共同企画「8学マルシェ」がスタートし、学生が八食の商品や地元食材を使って開発した「タパス&ピンチョス」(小皿料理、軽食)を販売。買い物券が当たる大抽選会や恒例のリンゴ市も盛況で、館内は地元客らでにぎわっている。

8学マルシェは、スペイン料理でおなじみのタパス&ピンチョスの8種類をセットにして販売。八食と連携する立教大観光学部の発案を土台に、八戸学院大地域経営学部の2、3年生15人がアイデアを出し、「サブ缶とシイタケのピンチョス」「そばかけラザニア風」などを考案した。監修した八戸市の食育料

理家・なきさなおこさんは「八食と学生がコラボレーションした面白い企画。さまざまな年代の人に楽しんでもらえるようなセットになった」と大鼓判を押す。

八戸学院大との共同企画では、学生が八食にある魅力的な商品やスポット、人物を選んだ「八食の良いもの40選」の店内マップも作成。パフォーマンス集団「実験道場」は、40選をテーマにした動画をYouTubeで公開している。

同大3年の細川和希さん(21)は「8学マルシェで地元食材の良さが伝わり、八食の利用にもつながってくれば。40選を見て、若者が八食に興味を持つことを期待したい」と話した。タパス&ピンチョスのセット商品は15、21、22、23日にも午前11時から市場棟1階特別会場で販売する。価格は1個千円(税込み)

で、各日20個限定。最高10万円分の買い物券が当たる大抽選会は、23日まで開催。地場産リンゴを販売する恒例の「リンゴ市」は24日まで開かれる。(松原一茂)